

令和4年度 ほくと・ななえ 医療・介護連携多職種研修会
「地域包括ケアシステムにおける病院の機能と役割について」
アンケート集計結果

n = 107 (回収率 40.2%)

1. 所属機関をお聞かせください。(複数回答可)

・医療機関	32	(30.2%)
・介護機関	62	(58.5%)
・教育機関	2	(1.9%)
・その他	11	(10.4%)
合計	107	(100.9%)

2. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・医師	0	(0.0%)
・歯科医師	0	(0.0%)
・薬剤師	22	(9.4%)
・保健師	5	(2.1%)
・看護師	12	(5.2%)
・ケアマネジャー	75	(32.2%)
・相談員	9	(3.9%)
・介護職員	13	(5.6%)
・歯科衛生士	0	(0.0%)
・栄養士	0	(0.0%)
・リハビリスタッフ	3	(1.3%)
・柔道整復師	0	(0.0%)
・鍼灸師・マッサージ師	0	(0.0%)
・福祉用具関連	0	(0.0%)
・事務員	14	(6.0%)
・教員	3	(1.3%)
・学生	0	(0.0%)
・その他	10	(4.3%)

社会福祉士 3名・施設長 1名・
救急救命士 5名・救急隊員 1名

合計 166 (100.0%)

3. 今回の研修はいかがでしたか？

・よかった	101	(67.8%)
・どちらともいえない	5	(3.4%)
・よくなかった	0	(0.0%)
・無回答	0	(0.0%)

【ご意見等】

- ・介護施設向けの研修も検討していただきたいです。
- ・それぞれの病院の機能や役割が理解でき、また、実際のケースを例にした説明により、退院後の在宅復帰に向けての支援方法についての確認できました。
- ・医療ソーシャルワーカーの説明が分かりやすかった。再度視聴して理解を深めたいと思います。
- ・病院の仕組みというものが薬局にずっといるとわからないので、病院の種類の違いのイメージがつくようになった。
- ・とても分かりやすく、病院の機能について説明して頂きました。
MSWさんとケアマネジャーの顔の見える関係を作ることが、利用者、患者さんの利益につながり在宅等での生活を支える事が出来ます。今後も、協力して行きたいと思いました。
- ・何度か、対面の頃から同様の研修を見させていただいております。分かりやすいです。
ブラッシュアップされていると思います。
- ・事例を用いることで、病棟の仕組み、医療と介護の連携、在宅での看取りについて勉強になりました。
ケアマネとして、在宅での看取りも経験しており、今後は、住み慣れた地域で自宅で最期を迎えたいと望む方が多くなっていくと思います。
- ・医療・介護の連携の必要性は以前から言われてきた。今回の講義でも問題が大きい割に短い時間でまとめるのは少し無理があったと感じた。それぞれの病院の役割が聞かれた点は良かったと思う。
- ・再生時のボリュームが低かったのですが、話し方が聞きやすかったです。MSW以外でもやはり多職種協働が重要だと再認識できました。ありがとうございました。
- ・後半の「事例」の部分がわかりやすかったです。
もう1、2事例あったら嬉しかったです（事例を参考にせず、勉強しなければなりません）
- ・改めて地域包括ケアにおける病院の役割、入退院支援、リハビリ、ソーシャルワーカーの役割等わかりやすく学ぶことができました。
- ・病院にいるときは患者さんだが、地域にいるときは一人の生活者であることを再認識できました。
今後、支援をしていく時には「その人が何を望んでいるか」「どうすることがその人のにとって良いのか」などを本人・家族・地域の担当者・病院の担当者と相談して行っていこうと思います。ありがとうございました。
- ・在宅での最期を希望する方が増えている中でも、本人の意思と反して救急要請がなされる事案が増えてきていると思います。このような事案対応は難しく救急隊の本来業務が行えない場合もありますので、家族からしっかりと情報を聴取して本人の意思を尊重できるような活動を実施していきたいと思いました。
- ・薬剤師もできることが少しずつ増えてますのでチーム医療と一緒に携われると幸いです。
- ・それぞれの病院の特徴が分かり、今後の関わり方の参考にさせていただきます。
ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすい説明でした。
- ・講師の話し方が誠実で聞き取り易かった。
- ・いつも意識している医療との連携を再認識出来ました。
- ・医療機関の役割について学ぶことができた。こんなことも相談していいんだと思えることがあった。
- ・包括ケアシステムの役割や加算要件など普段知り得ることが聞けて参考になりました。
- ・とてもわかりやすくまとめてくださり、資料も今後の支援に役に立つ物で勉強になりました。
お忙しい中お疲れ様でした。

- ・地域の医療機関の体制について詳しく知ることができ、現在の状況について学ぶことができました。
- ・それぞれの病院の機能や役割を知ることができました。
入院・退院・在宅、すべてにおいて医療ソーシャルワーカーがかかわっているのだということを改めて知ることができました。
- ・非常にわかりやすかったです。医療機関の特性を見直すことが出来ました。
- ・地域包括ケアについて、わかりやすく詳しい説明だった。また実際にお世話になっている市内の病院が、包括ケア内のどのあたりを担っているのかがよくわかった。数年前に比べると比較にならないくらい、社会福祉士の方の我々福祉施設への対応が良くなっていると感じていたが、この地域包括ケアの推進によるものだと感じた。
- ・普段知ることの出来ない病院の中のケアについて知ることが出来て良かったです。昏はなかなか退院のカンファレンスに薬剤師が出向く事はありませんが、今回の研修を参考に退院時カンファレンスにも積極的に参加していきたいと思います。
- ・病院の仕組みがわかりやすく説明されていてよかった。
- ・とても解りやすく勉強になりました。
- ・事例があつてわかりやすかったです。
- ・今後もわかる限り詳細に記載し病院との連携を大切に情報提供をすることが利用者の希望に添ったサービスの提供につながると思いました。
- ・病床区分の話は良かった。
- ・地域包括ケアシステムにおける病院と機能について、具体的に把握できていなかった部分があったため、今回の研修でより把握することができました。
- ・各病院の機能等について、様々な視点からの説明に加え、SWの役割と多職種との関係等、多岐に渡る内容を分かりやすく、コンパクトに説明されており、大変聞きやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・当施設は地域密着通所介護になります。デイサービスでは退院後の方や、高齢者のリハビリができるよう理学療法士を配置しております。またIADLを実施しています。
今後も地域で連携でき、ご自宅で出来るだけ生活が継続出来るようサービス提供していきます。
- ・とても分かりやすいお話でした
- ・函館は全国と比べ高齢化が進んでおり、より地域連携が重要と感じていました。その中でMSWの方たちには、とても助けられており、これからも地域連携の中心を担う職種として、とても期待しています。
- ・地域包括ケアシステムの機能や役割について分かりやすかったです。
- ・病院の役割分担、ケアマネの期待することなど聞けて大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・時間が長い。
- ・MSWの役割の大きさを痛感致しました。患者さんの希望を叶えるために奔走してくださっていることに感謝致します。
- ・地域包括ケアシステムについて、病院の分類が急性期・亜急性期・慢性期に分かれているが更にケアミックスの視点で確認すると函館市内の各病院が多種多様の機能を持っている事を学ぶことが出来ました。
可能な限り住み慣れた地域で自分らしく人生の最後まで続けることが出来るために、多職種協働の在宅医療介護を提供できる体制を構築するための取り組みが、在宅死を選択する事に繋がると考える事が出来ました。
施設で最期を迎えたいと希望をされる方も入居者様の声と、施設の体制や環境が見合っていない現実もありますが、支援者側の貴重な考えを学ぶことが出来ました。
講師の廣瀬様、ありがとうございました。
- ・事例を基に説明していただき、わかりやすかったです。
地域での役割分担に加え、施設内での役割分担、そして、境界線を完全に作らずに協働で対象者について考えていく事はとても大事であることを学びました。
これから先、この地域で暮らす方々の年齢がさらに上がる事が予測され、自分もその仲間入りしていきます。
互いに安心して生活できるよう、工夫ができたらと思います。
ありがとうございました。
事例を基に説明していただき、わかりやすかったです。
地域での役割分担に加え、施設内での役割分担、そして、境界線を完全に作らずに協働で対象者について考えていく事はとても大事であることを学びました。
これから先、この地域で暮らす方々の年齢がさらに上がる事が予測され、自分もその仲間入りしていきます。

互いに安心して生活できるよう、工夫ができたと思います。
ありがとうございました。

- ・わかりやすかったです。
ケアマネの意見のように、その方の在宅生活や施設生活について親身に考えてくれるMSWが増えてほしいと感じます。

*多数同意あり、まとめて掲載しております。

4. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

- ・在宅における患者とのコミュニケーションについて知見を深めたいので、コミュニケーション技術の研修を受けたいと思います。
- ・接遇。社会人のマナー講習。
- ・独居生活で、介護できる家族や地域との関わりが無い方に、公的サービスのみで最後まで在宅で過ごす事ができるのか？その場合（ご本人の状態にもよりますが…）医療と介護、多職種連携で、どこまで可能であるのか、事例を用いて勉強したいです。
- ・特にありませんが自分のスキルアップのためにも研修があれば参加させて頂きたいです。
- ・認知症について
 - ・認知症が進行しないような取り組みについて（患者家族側の取り組み）
 - ・認知症家族のケア（患者本人へ強く言ってしまう自己嫌悪に陥ってしまった時の対処法など）
 - ・デイサービス以外に認知症の方が気軽に（試みに）参加できるような場を作る取り組みなど、認知症について詳しく勉強したいです。
- ・総合病院だけではなく、地域の病院との連携方法
- ・地域包括ケアシステムを中心としてSWの方はもちろんそれ以外の居宅や在宅関連のそれぞれの職種の方、出来る事を具体的に共有できる会があればうれしいです。
- ・連携や介護サービスの内容については普段視聴する機会も少ないので参考になります。
- ・介護職にも判り易い医療系の講習
- ・医療保険での訪問看護利用について。
- ・地域包括ケアシステムの実例をもっと知りたいです。
また、その実例の中でうまく連携できた部分・見直しが必要だった部分などを知りたいです。
- ・病院機能の分類や人員配置等、函館にある病院を挙げながらの説明だったので、よても分かりやすかった。事例を通して外来、通院、入院、救急、在宅療養等の流れが具体的にイメージしやすくとても学びになりました。病院側からの目線での連携について理解できた。ケアマネ側からとのズレを感じていたことも多かったが、今後は積極的に相談していきたいと思う。それが利用者にとっての都合の良い状況になるようにと考えます。入退院支援、水平連携に従事した垂直連携が大切であると感じ増した。医療ソーシャルワーカーの仕事の再確認ができた。包括病棟の事を今回の研修で少しは、理解できたような気がします。
- ・今後もコロナとの共存を継続しながらの病院機能・経営を求められる中、超高齢化・人口減少等たくさんの課題を抱える道南地区で必要となる医療・福祉についての内容等を希望します。
- ・多職種の重要な役割をさらに教えていただければ幸いです。
- ・食事について。福祉用具(冬場の玄関先の対応)について。(滑り止めマットなど)
- ・職員のメンタルケア 利用者の暴力 介護の軽減などについて

5. ご質問がございましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。